

■ 地元産業界等との連携事業

本学生生活学科では、大津市保健所と協力連携し、市内在住の親子を対象とした食育推進事業の取り組みとして、令和6年7月30日に「夏休み親子食育教室」を開催しました。

食文化の多様化により、栄養のバランスの偏り、朝食欠食などの食生活の乱れ、肥満や痩身傾向など健康を取り巻く問題が深刻化している中、こうした問題を解決するため、また、健康寿命を延ばし生涯にわたって生き生きと暮らすためには、市民一人一人が食に対する幅広い知識を持ち、食を選択する力を習得する必要があります。

そこで、食の大切さを学び健全な食生活を実践する力を養うこと、また生活習慣の基本である朝食摂取率の改善を目的に、朝ごはんと滋賀の郷土料理をテーマにした調理実習と食に関する講話を行いました。

なお、この取り組みは令和7年度も継続して実施する予定です。

■ 地元産業界等と連携した授業科目

本学ビジネスコミュにケーション学科では、滋賀県及び大津市と連携し、専門科目である「地域づくり論」「地域ビジネス論」「事務管理」の授業で、様々な分野の職員の方から地域の現状と諸課題について話を聞き、その解決のために自分たちにできることを考え、議論しました。

令和6年度は、「地域づくり論」で、滋賀県農政水産部みらいの農業振興課 食のブランド推進室の方に「食のブランド化」、「おいしがうれしが」について、滋賀県農政水産部農政課 企画・世界農業遺産係の方に「琵琶湖システム、世界農業遺産」について、農政水産部 畜産課の方に「近江牛」についてご講演いただきました。「地域ビジネス論」では、大津市広報課の方に、地域住民と連携したまちづくり活動についてご指導いただきました。

「事務管理」では、大津市DX推進室の方にDXやAIの活用に関する大津市の取り組みについて講演していただきました。

また、「特別演習Ⅰ」の授業では、令和6年度から地元の企業等（れもん会社、川島酒造、南深清水FF倶楽部）と連携して実施している「SHIGATAN サーキュラーエコノミー・プロジェクト」について、コーディネーターの紀平健介氏を講師に招いてサーキュラーエコノミーの概念について学習し、ロス食材の活用、レシピ開発、製品化、販促活動等、今後の具体的な活動のあり方について議論しました。

地域産業の活性化や地域課題解決に携わっておられる現場の方々の生のお話を伺うことで、学生は自分が関係する地域の現状と課題について学び、その解決策について議論し、提案することができました。